

## 第13回 看護介護研究発表会

医療法人協愛会 阿知須共立病院

- 日時 2020年 2月6日(木) 17:45~19:30
- 場所 2Fホール
- 司会 阿部亮太 教育委員長
- 座長 内海育子 副主任



### 開会の挨拶

教育委員長 阿部亮太

今年度より、新たな試みとして対外発表に向け抄録の様式も学会などに準じた院内の基準を作成し1000文字程度となりました。教育担当者だけではなく山口県立大学 家入先生やリハビリテーション科中空さんに介入を依頼し、定期的な研究の勉強会や報告会を開催し、正しい研究方法や抄録作成などに助力をしていただきました。当院の研究体制がよりパワーアップしたと感じています。本日の研究発表が行えるのも、家入先生、中空さん、教育担当者、研究メンバー、研究に携わっていただいた全ての方々のおかげです。心より深く感謝致します。ありがとうございました。



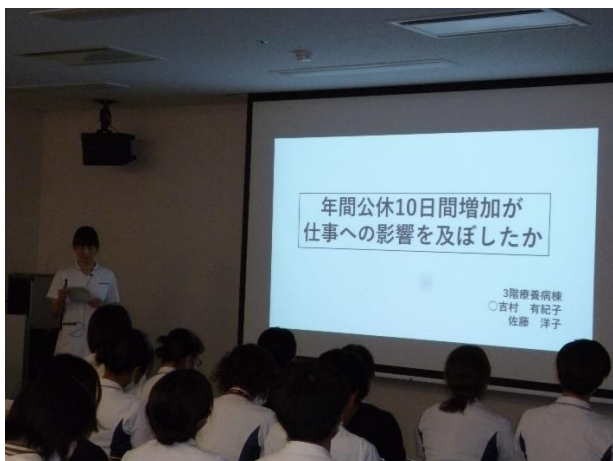
### 研究発表 1

#### 手指消毒に対する意識向上に向けた取り組み

4階地域包括ケア病棟

- 看護師 西村美穂
- 看護師 弘中美菜
- 看護師 安光佐智子
- 介護福祉士 手島大輔

当病棟では1患者あたりの手指消毒回数が目標値に達していないことがあり、適切な手指消毒が継続して行われていない現状であったため、病棟職員間で手指消毒実施状況の相互チェックを行うことで、職員の手指消毒に対する意識が変化したことを明らかにしました。介入方法は直接観察法として毎週月曜日から金曜日の日勤帯で2名チェックマンを決定し、チェックリストに基づき、手指消毒の実施状況の確認を行いました。また、介入前、後にアンケート調査も行いました。今回の研究で職員間で相互にチェックすることにより手指消毒実施率が改善し、お互いにチェックし合うことで手指消毒に対する意識が高まりました。



## 研究発表 2

### 年間公休10日間増加が仕事への影響を及ぼしたか

3階療養病棟

○看護師  
看護師

吉村有紀子  
佐藤洋子

公休が年間で10日間増加した経緯について、「休暇の増加は好循環サイクルを生み出すような影響を及ぼしたか」を調査しました。当院全看護師126名に対してアンケート調査を実施、集計しました。休暇が増えた事で職場環境に良い影響をもたらしているかという仮説のもと研究を行いました。休日増加がそのまま満足に繋がるのではなく、休暇のとりやすさや年次休暇の扱われ方など、休暇を取り巻く環境が重要視されると感じました。



## 研究発表 3

### 内科外来患者の体重測定に対する思い

外来

○看護師  
看護師

小宮千春  
繁田雅子

定期内科外来患者を対象とした体重に関する意識調査についてのアンケート調査を行う事で、患者の体重に関する思いを知り今後の患者指導へ繋げていく事を目的に研究を行いました。研究前は、体重管理の重要性に対する指導が不十分であると考えていましたが、結果は自己測定群が多数(85%)を占めていました。また、病識理解度や標準体重の認識からみても健康に必要な体重管理には高い意識をもっており、自己測定している理由からも医師からの指導が健康に対する体重管理に影響を与えているのではないかと考えました。今後は標準体重を踏まえた生活指導を行い、医師、看護師が連携をもって行っていきたい。



#### 研究発表 4

##### 認知症利用者のBPSDの軽減を図る ～職員の意識調査とユマニチュード～

NLA

- |        |       |
|--------|-------|
| ○介護福祉士 | 河東成美  |
| 介護福祉士  | 正司菜見子 |
| 看護師    | 井上知子  |
| 介護福祉士  | 松浦美咲子 |

当施設は認知症病棟を開設し、不安・妄想・徘徊・興奮がある認知症高齢者が入所されています。職員は、時間や距離を置く、話を傾聴する等の対応を行っていますが、介護抵抗や暴力行為時の対応に困難を感じていました。そこで当施設でもユマニチュードケアを取り入れ、アンケートを行い、職員の意識や利用者の反応の変化を検討することとしました。職員の視点からは、利用者と職員がお互いに受け入れようとする気持ちによって信頼関係が築けたこと、利用者の変化が目に見えることで、介護や対人援助に対する気持ちを前向きに変えることができたのではないかといい結果がでました。今後も施設全体でユマニチュードケアを広めていきたいです。



#### 研究発表 5

##### せん妄・ADLの低下予防のための早期離床の効果 ～急性期病棟でできること～

- |        |       |
|--------|-------|
| ○看護師   | 河畑優希菜 |
| 看護師    | 大西幸子  |
| 病棟クラーク | 岡屋和子  |
| 看護師    | 岡野学   |

急性期病棟での早期離床がせん妄やADLの指標に与える影響について発表しました。1日5～40分の離床で、早期の関わりにより、せん妄・ADLに好影響を及ぼしました。食堂への車椅子離床でも十分な効果を得られる事が示唆されました。疾患の治療が終了しても、その後のQOLが低下しないように包括的ケアを行うことが看護師の職務と考え、本研究において得られた結果は、今後日々の業務に取り入れる目安にすることができました。このことは患者のQOLの維持・向上させるだけでなく、看護師の負担の軽減に繋がるのではないかと思います。



### 院長による総評

各演題とも早期から介入され病院の機能にはなくてはならない事例でした。是非院外でも発表してもらいたい。休暇も量より質なので、家族、地域とのふれあいの時間にあてるなど充実した休日にしていただきたい。学ぶ姿勢があつて良かったと思います。明日からの診療の糧にいただきたい。



### 工藤診療部長による総評

電子カルテの身長、体重、BMIを見たり、化学療法の時の体重の増減は参考にしています。ユマニチュードについて4つの基本、見る、話す、触れる、立つですが立つという事はとても大事。その方が亡くなるまで認知症ケアをしていただくことに敬服します。ユマニチュードでのケアが点数化され、薬よりもケアが大事という側面があることを知りました。



### 鈴木内科部長による総評

年々レベルがあがってきています。手指消毒では現場で取り組んでいただき成果をあげて感謝しています。公休の演題では、皆さんの働き方が直接私達に返ってきています。チームが一丸となって仕事をしていく上で大切な事なので、関心を持って聞きました。外来患者さんの体重については、自分の患者さんは必ず体重測定をしてもらっています。負担ではないかと思っていましたが、納得されている方もおられることが分かってよかったです。5階病棟の演題について、短期間でレベルの高い発表でした。医学的な項目を追加すれば学会に出せるのではないかと思います。







